

<別紙1>

第三者評価結果報告書

①第三者評価機関名

よこはま地域福祉研究センター

②施設・事業所情報

名称：スターチャイルド《たまプラーザ ナーサリー》	種別：認可保育所
代表者氏名：岡野 隆重	定員（利用人数）： 60名（58名）
所在地：神奈川県横浜市青葉区新石川2-4-7	
TEL：045-910-3091	ホームページ： https://www.starchild.jp/nursery/tama/
【施設・事業所の概要】	
開設年月日：2014年4月1日	
経営法人・設置主体（法人名等）：ヒューマンスターチャイルド株式会社	
職員数	常勤職員： 16名 非常勤職員 2名
専門職員	施設長 1名 保育士 13名
	栄養士 1名 調理員 2名
	事務職 1名
施設・設備 の概要	（居室数） 保育室6室 （設備等） 園庭、事務室、厨房、幼児トイレ、多 目的トイレ、沐浴室、調乳室、エレベ ータ、更衣・休憩室など

③理念・基本方針

【保育理念】

わたしたちは、子どもたちの無限の可能性を信じ、意欲を引き出し、伸ばす保育を実践します。

【保育方針】

- ・良く考え心身ともにたくましい子（子どもたちの自立と挑戦を支援します。）
- ・個性の豊かな子（子どもたちの個性を尊重し、長所を伸ばします。）
- ・やさしさと思いやりのある子（社会性＝人と関わる力を身につけます。）

④施設・事業所の特徴的な取組

- ・基本的な生活習慣において適切な援助をしながらも、見守り、自分で考え、自分で行動できるよう支援します。
- ・できないことをやろうとする気持ちや、未知の体験に対する興味・好奇心が大きく育つよう保育者に働きかけます。
- ・人は一人一人違うから意味があります。お互いに個を尊重しあってこそ、素晴らしい人間関係が育ちます。
- ・子どもたちの得意なこと、好きなこと＝長所を見つけ、伸ばし、広く明るい心をもった子どもに育てます。
- ・遊びや体験を積み重ね、お互いの思いやり、協調性、忍耐力などの社会性が身についた子どもに育てます。

⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	2021年5月17日（契約日） ～ 2022年2月8日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	1回（ 2016 年度）

⑥総評

◇特に評価の高い点

◆子どもたちは自主性を発揮してのびのびと園生活を楽しんでいます

園は、子どもが何を思っているか、子どもが自分の気持ちを表現できるよう援助しています。表現ができない乳児には、表情や仕草、喃語から思いを汲み取るよう努めています。幼児クラスは朝の会でやりたいことの見解を公表し、子どもたちが話し合って決める「子ども会議」では、お楽しみ会など、どのようにしていきたいか意見を交し、子どもが自主性を発揮できるよう援助しています。様々な場面で、保育士から「どうしたい」「どうしたら良いと思う」との問題を投げかけられ子どもたちは話し合っています。このような保育を通じて、子どもたちは日頃から自分で考える力が自然と養われ、育まれています。「子ども会議」では夏祭りのおみこし制作のアイデアを出し合いながら友だちと一つのことをやり遂げました。子どもたちは、自分たちで決めたことを友だちと協力して活動して達成感を味わい、保育園を楽しんでいます。

◆異年齢の交流が園生活を豊かにしています

子どもたちは、異年齢で過ごすことも多く、一緒に散歩に出かける戸外活動や園内での遊びなどを楽しんでいます。毎日の保育の中で行われる着替えの際の着脱や、トイレでの排泄の様子をみて、子どもたちは、年上の子どもを見て、おにいさん、おねえさんパンツに憧れ、自分もやってみたいという気持ちから基本的な生活習慣を身につける意欲を自然と持つようになっていきます。5歳児クラスになると、一日の生活の流れを理解し、促されなくとも自ら行動できるようになっています。給食前に当番の子どもは自ら給食室に行き、献立の食材を掲示した三色ボードを保育室に運ぶ姿が観察されました。5歳児は、友だちと協力してやり遂げる達成感を味わい、様々な体験を年下の子どもへ伝える役割を持って年下の子どもと活動しています。4、5歳児は合同で「じゃんけん列車」のゲームを楽しみ、終わるとお互いに横一列になって「ありがとうございました」と感謝を伝えていました。このように子どもたちはお互いの存在が豊かな保育園生活につながっています。

◆園内研修の充実を図っています

法人は、人材育成計画に基づき、法人主催の階層別研修やスキルアップ研修、認定研修などを実施して保育の質の向上に努めています。さらに、園内研修として「子どもの目線、10の視点で保育を見直す」「エピペン、AED・CPRトレーニング」「わらべうた」など毎月にテーマを決めて研修し、ロールプレイングして意見交換するなど研鑽に努めています。また、「わらべうた」の研修は年間を通して実施していて、保育中に次の活動へ移る時にも手遊び歌をするなど子どもたちを待たせない工夫をしています。これにより、保育士は、様々な場面で対応できる引き出しを沢山持ち、研修の充実により保育理念の実現に努めています。施設長を中心に職員間の対話を通じた様々な仕組みが保育サービスの質の向上に繋がっています。

◇改善を求められる点

◆地域子育て支援プログラムの実施を期待します

園は、地域子育て支援プログラムとして、今年度は、年3回の育児講座「手作り玩具で遊ぼう」「ベビーマッサージ」「おやつクッキング」、年3回の交流保育「七夕まつり」「ハロウィン」「節分・豆まき」、年12回の「施設の地域開放」が予定されていましたが、コロナ禍で実現できていません。これからの取組を期待します。

⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

今回私は、第三者評価を施設長として受審いたしました。保育所保育指針の改訂、働き方改革、社会の変化の中で保育園の在り方や運営も、以前とは大きく変わったように思います。

第三者評価にあたり、全職員で意見交換を行ない、主任、幼児・乳児のリーダーとともに内容の検討を進めました。1項目1項目のマニュアルの確認と振り返りの作業は、大変でしたが、力を入れてきた部分と更なる改善が必要な部分が見えてきました。

むしろ良い評価を頂く事よりも、日々の保育の振り返りの大切さに意味があると思うようになりました。

第三者評価で頂いた結果が、私たち職員一同の新しい道標となり 保育が動き出しています。

お忙しい中、利用者アンケートにお答えしていただいた保護者の皆様には、心より感謝申し上げます。

今後もさらに保育内容の充実を図り、木の温もり溢れる スターチャイルド《たまプラーザナーサリー》らしさを追及してまいります。

また、地域の方々からの大きな期待もいただいておりますので、子育て支援にも今まで以上に活動の幅を広げ 全ての子ども達の笑顔の花開く保育園を目指してまいります。

⑧第三者評価結果

別紙2のとおり